

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月10日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20330039

研究課題名（和文） イギリス経済思想史における人口・貧困・福祉

研究課題名（英文） Population, Poverty and Welfare in the History of British Economic Thought

研究代表者

渡会 勝義（WATARAI KATSUYOSHI）

早稲田大学・政治経済学部・教授

研究者番号：80097196

研究成果の概要（和文）：研究プロジェクトのテーマに沿ってメンバーがそれぞれ分担部分について研究を進め、複数の論文を書いた。そしてイギリスから2名の研究者に協力を依頼しコンファレンスで報告してもらった結果、イギリスの経済思想史における人口・貧困・福祉に関する議論について、アダム・スミスから20世紀後半に至るまでの研究の成果を通史としてまとめる段階に達した。さらに、フランス、ドイツ、スウェーデン、イタリアからも研究者を招聘し、コンファレンスを毎年1回から2回行った結果、他の諸国における議論と比較したイギリスにおける議論の特徴もかなり明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：The members of the research project have carried out their researches in their allotted parts and have written several papers. We also asked scholars of Britain, France, Germany, Sweden and Italy to write papers on the theme of our project and present them at the conferences we held for our project. As a result, we have gotten a sufficient number of research papers to make a general history of the arguments on population, poverty and welfare in the history of British economic thought. We have also made clear the characteristics of the arguments on the theme in Britain compared with some other countries in Europe.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2009年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2010年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2011年度	2,468,841	740,653	3,209,494
2012年度	931,159	279,347	1,210,506
総計	11,300,000	3,390,000	14,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学、経済学説・経済思想

キーワード：人口、貧困、福祉

## 1. 研究開始当初の背景

経済学・経済思想の歴史において長い間、下層の人々の貧困や福祉は主要な問題としてそれらを左右する要因と対策が、人口を主要な関連要因として考察されてきた。しかしながら、現代の経済学においては、単なる与件

の1つとして扱われ、人口は下層の人々の福祉を左右する重要な要因としては扱われなくなった。

経済学の発展の歴史が典型的に展開されたイギリスにおいては、スミスに始まる古典派から20世紀のケインズに至るまで、労働

者階級の貧困と福祉が主要なテーマであり、人口との関連でつねに論じられてきた。しかもイギリスにおいては、エリザベス1世の時代以来救貧法(Poor Laws)が20世紀の半ばに至るまで存在し、そのあり方および存否が経済学においてつねに論争対象となってきたのである。

以上のような歴史的背景に加え、下層の人々の貧困・福祉の問題は現代の先進諸国においても解決されたとは言い難い状況にあり、また人口の問題は世界的にみるとイギリスの古典派経済学者たちがそれを人々の福祉を左右する重大な要因と考えた状況が、依然として存在するのである。このような状況を考慮し、特にイギリスにおいて経済学・経済思想は人口との関連で下層の人々の貧困・福祉の問題にどのように取り組んできたかを体系的に研究する研究プロジェクトを構想したのである。

## 2. 研究の目的

研究の全期間と通じてイギリスの経済学・経済思想の歴史において、人口との関連で下層の人々の貧困と福祉の問題が、特にそれらを左右する要因と解決策に関して、どのように論じられてきたかを、スミスから20世紀に至るまでの期間について、系統的に研究し、現代における下層の人々の貧困・福祉の問題を考える上で有用な知見を得ることを目指した。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成する上で不可欠なのは、イギリスの経済学史・経済思想史について、様々な時期、人物を専門的研究対象とする研究者を主要なメンバーとする研究組織を構成し、さらにイギリスとその他の諸国の専門的研究者の協力を得て、国際比較の視点を加えつつ研究を遂行するという方法をとった。イギリスにおける議論の特徴を明らかにするには、国際比較の視点が不可欠であると考えたからである。

外国研究者としては、イギリスから J. Vint (Manchester Metropolitan University), M. Quinn (University College, London), フランスから G. Faccarello (University of Paris 2), Jerome Lange (University of Paris, Descartes), ドイツから T. Pierenkemper (Koeln University), スウェーデンから M. Lundhal (University of Stockholm), イタリアから Antonella Stirati (University of Rome), Claudia Sunna (University of Salento), Alberto Chilosi (University of Pisa) を招聘した。

## 4. 研究成果

研究代表者と分担者は、それぞれが専門とす

る時期、および人物について、人口との関連を考慮しつつ、下層の人々の貧困・福祉の問題についての議論を検討し、それらの議論にみられる主要な考え方(貧困の原因、対策、下層の人々一般の福祉の向上を実現する方法など)を明らかにし、論文を日本語と英語で書き、学会および研究会、国際コンファレンスなどで発表した。さらに、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデンの研究者に協力を依頼し、それぞれの国の経済思想の歴史において、下層の人々の貧困・福祉の問題が人口との関連でどのように論じられ、どのような対策が考えられてきたかについて、論文を書き、彼らを招聘したコンファレンスにおいて報告してもらい、国際比較をイギリスと中心として行った。以上をプロジェクトの全期間にわたって行った結果、イギリスの経済思想史における人口・貧困・福祉に関する議論を1つの通史としてまとめる段階に達したと考える。また国際比較をある程度行うことによって、イギリス経済思想史における下層に人々の貧困と福祉に関する議論の特徴をかなり明らかにすることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

雑誌論文(計16件)

1) 石井穰、リカードウの労働需要論と不生産的労働『経済系』(関東学院大学)第254集, 120-135. 2013年。査読有。

2) 新村聡、「アダム・スミスの社会的自由主義—金融規制政策と所得再分配政策を中心として—」『経済科学通信』129巻、62-67, 2012年。査読無。

3) 小峯敦「経済と福祉の連続—ベヴァリッジの略伝から現代へ—」『経済学論集』(龍谷大学経済学部)、51巻4号、71-92, 2012年。査読有。

4) 石井穰、「リカードウ機械論とハイエクの『リカードウ効果』」『経済系』(関東学院大学)第250集, 41-55. 2012年。査読有。

5) 江里口拓, Sidney and Beatrice Webb and the Swedish Welfare State: a Preliminary Consideration, *Economic Review of Seinan Gakuin University*, Vol.46, No.1-2, 227-248. 2011年。査読有。

6) 石井穰、「マルクスの相対的過剰人口論と古典派経済学批判」『経済経営研究所年報』(関東学院大学)第33集, 148-164. 2011年。査読有。

7) 江里口拓、「ウェッブ夫妻とスウェーデン

ー「国民的効率」からレーン・メイドナー・モデルへ』『社会福祉研究』愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科、12巻、1-11. 2010年。査読有。

8)小峯敦、「ベヴァリッジの貧困観と家族観—福祉国家理念の可能性」『社会経済史研究』第33号、43-56. 2009年。査読有。

9)江里口拓 *The Webbs, Public Administration and the LSE: the Origin of Public Governance and Institutional Economics in Britain*, *History of Economics Review*, no.50, 17-30. 2009. 査読有。

10)渡会勝義、書評：吉尾清『社会保障の原点を求めて：イギリス救貧法・貧困問題（18世紀末—19世紀半頃）の研究』、『マルサス学会年報』第18号、79-101. 書評論文。2009年。査読無。

11)小峯敦、「ベヴァリッジの貧困観と家族観—福祉国家理念の可能性」『社会経済史研究』第33号、43-56. 2009年。査読有。

12)石井穰、「相対的過剰人口と労働力の再生産—資本主義的蓄積の一般的法則に関連して—」『研究論叢』（工学院大学）第46巻第2号、33-50. 2009年。査読有。

13)渡会勝義、「マルサス、リカードと同時代の救貧思想」『立教大学経済学研究』第62巻第2号、25-60. 2008年。査読無。

14)渡会勝義、「(書評) 飯田・出雲・柳田編『マルサスと同時代人たち』日本経済評論社、2007年」『長崎県立大学論集』第41巻第2号、89-108. 書評論文、2008年。査読無。

15)渡会勝義、「Ricardo on Poverty: His Vision of a Market Society」、『経済学史研究』（経済学史学会）第50巻第2号、1-20. 2008年。査読有。

16)江里口拓、「ウェッブ夫妻における「国民的効率」の構想—自由貿易、ナショナル・ミニマム、LSE」『経済学史研究』経済学史学会、第50巻、第1号、23-40. 2008年。査読有。

学会発表（計37件）

1)渡会勝義、Economic Thought and Poverty, マルサス学会、佐賀大学、2012年7月8日。

2)新村聡、「アダム・スミスの社会的自由主義—金融規制政策と所得再分配政策を中心として—」経済学史学会第76回大会、小樽商科大学、2012年5月27日。

3)石井穰、「リカード機械論研究の展開—スラッファによる「革新的変更」をうけて—」、経済学史学会第76回大会、小樽商科大学、2012年5月27日。

4)石井穰、Marx's Relative Surplus Population

and his Critique of Classical Economics. International Ricardo Conference 'After Ricardo'(Meiji University). September 3, 2012..

5)Jerome Lange(Centre Population et Development, University of Paris), Division, Demand and Supply of Labour: Elements of a Theory of Population in Adam Smith , (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison, Waseda University, 6 May 2012).

6)Katsuyoshi Watarai, Population and Poverty in Malthus's Economic Thought, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison, Waseda University, 6 May 2012).

7)Michael Quinn (University College, London), Bentham, Malthus and J.S.Mill on Poverty, Population and Poor Relief, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison, Waseda University, 6 May 2012).

8)Joe Ishii, Population and Poverty in Marx's Economic Thought, (presented to the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison , Waseda University, 6 May 2012).

9)Alberto Chilosi (University of Pisa, Italy), Poverty and Development in Historical Perspective, (presented to the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison , at Waseda University, 6 May 2012).

10)石井穰、「マルサスの強制貯蓄論と全般的過剰生産論—ハイエクの景気循環論の視点から—」マルサス学会第21回大会報告(大阪商業大学), 2011年7月。

11)江里口拓, セッション「20世紀イギリスにおける公共政策の経済思想」組織者および報告「ウェッジ夫妻とLSEの公共政策論:一次大戦後イギリスにおけるガバナンスの構想」経済学史学会第75回大会, 京都大学, 2011年11月5日。

12)Joe Ishij, John Barton and his Considerations on the Poor Laws, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought with an international comparison, Waseda University, 12 September 2011).

13)Gilbert Faccarello (University of Paris 2), A dance teacher for paralytic people? Pauperism and the birth of Christian political economy in 19<sup>th</sup> century France, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought with an international comparison, Waseda University, 12 September 2011).

14)Ryo Hongo (Hirosaki Gakuin University), Pigou's *Wealth and Welfare* in the Making: Poor Law Reform and Unemployment Problem, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought with an international comparison, Waseda University, 12 September 2011).

15)Taku Eriguchi, The Webbs and Swedish Welfare State: from "national efficiency" to Rehn-Meidner Model, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought with an international comparison, Waseda University, 12 September 2011).

16)John Vint (Manchester Metropolitan University), Harriet Martineau, Nassau Senior

and Poor Law Reform, presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought with an international comparison at Waseda University, 12 September 2011.

17)Michael Quinn (University College, London, UK), 'Subsistence and Security versus Enjoyment: Poverty and Population in the Political Economy of Jeremy Bentham', (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 7 March 2011).

18)Atsushi Komine, Beveridge on a Welfare Society: State, Market and Community, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 7 March 2011).

19)Claudia Sunna (University of Lecce, Italy), Economic thought on population in Italy: From Illuminist reformers to the late XIX century debate on Malthusian theory, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 7 March 2011).

20)Katsuyoshi Watarai, Economic Thought for Escape from Mass Poverty with an Example from Edo Japan, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 7 March 2011).

21)Toni Pierenkemper (Koeln University, Germany), Poverty and Pauperism in Germany, (presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 7 March 2011).

22) 江里口拓、「ウェブ夫妻とスウェーデン・モデル - ナショナル・ミニマムからレーン・メイドナー・モデルへ」進化経済学会 第14回大会 大阪大会, 四天王寺大学, 2010年3月28日。

23) 江里口拓、Theory of the Webbs on National Minimum and the Future of British Economy, (presented at HETSA2010 (History of Economic Thought Society of Australia), Sydney University, 9th July 2010).

24) Satoshi Niimura, Poverty and Inequality in David Hume and Adam Smith, (presented at the Conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison, Waseda University, 8 March 2010).

25) John Vint (Manchester Metropolitan University), The Wages Fund Doctrine and the Welfare of the Working Class, presented at the Conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison, Waseda University, 8 March 2010.

26) Taku Eriguchi, The Webbs on National Minimum and the Future of the British Economy,, presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 8 March 2010.

27) Katsuyoshi Watarai, Population, poverty and welfare in the history of Japanese economic thought: the case of Edo period, presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 8 March 2010.

28) Gilbert Faccarello (University of Paris 2), “She tells him to be gone.” Population, poverty and welfare in France during the first 19<sup>th</sup> Century: the heyday of a controversy, presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 8 March 2010.

29) Mats Lundahl (Stockholm School of Economics), The Response to Knut Wickell’s First Cause *Celebre* : The Chief Cause of Social Misfortunes, presented at the conference, Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought, Waseda University, 8 March 2010.

30) 渡会勝義、Ricardo’s Economics and Copleston’s Defence of the Poor Laws, presented at The Second Joint Conference ESHET-JSHET (March 2009, Kyoto University).

31) 石井穰、John Barton and the Poor Laws, 生産と分配の経済思想史研究会、早稲田大学、2009年3月2日(月)。

32) Antonella Stirati (University of Rome), On the Theory of Wages and the Living Standard in the Classical Political Economy、生産と分配の思想史研究会、早稲田大学、2009年3月2日(月)。

33) Taku Eriguchi, The Webbs, Public Administration and LSE: an Origin of Public Governance and Institutional Economics in Britain, paper presented at HETSA2008 (History of Economic Thought Society of Australia), Western Sydney University, 13 July 2008.

34) 新村聡、共通論題「貧困と福祉の経済思想」第1報告「アダム・スミスは反福祉国家か?」、経済学史学会第72回大会、愛媛大学 2008年5月25日。

35) 渡会勝義、共通論題「貧困と福祉の経済思想」第2報告「貧困と福祉の経済思想」 「リカードウ、マルサスと同時代の救貧思

想」、経済学史学会第72回大会、愛媛大学2008年5月25日33)

36) 小峯敦、共通論題「貧困と福祉の経済思想」第3報告「LSEの福祉思想?—ベヴァリッジの視角から」、経済学史学会第72回大会、愛媛大学2008年5月25日。

37) 江里口拓、共通論題「貧困と福祉の経済思想」第4報告「19-20世紀転換期における救貧法改革論—ボザンケ、マーシャル、ウェップ、初期ベヴァリッジ—」経済学史学会第72回大会、愛媛大学2008年5月25日。

〔図書〕(計 13件)

1) 石井穰、『古典派経済学における資本蓄積と貧困』青木書店、2012年3月。

2) 小峯敦 with Fabio Masini, *The Diffusion of Economic Ideas: Lionel Robbins in Italy and Japan*, in H.D.Kurz and T.Nishizawa(eds), *The Dissemination of Economic Ideas*, UK:Edward Elgar, pp.223-259. 2011.

3) 小峯敦、Beveridge on a Welfare Society: an Integration of His Trilogy, in R.E.Backhouse and T.Nishizawa(eds), *No Wealth but Life: Welfare Economics and the Welfare State in Britain, 1880-1945*, Cambridge University Press, 2010,

4) Atsushi KOMINE and F.Masini, “The Diffusion of Economic Ideas: Lionel Robbins in Italy and Japan”, in H. D. Kurz, T. Nishizawa, and K. Tribe (eds.) *The Dissemination of Economics Ideas*, Cheltenham, UK: Edward Elgar, 223-259, October 2011.

5) 新村聡、「アダム・スミスの貧困と福祉の思想」小峯敦編『経済思想のなかの貧困・福祉』第1章。34-63、2011年。査読有。

6) 新村聡、「D. ヒュームと A. スミスの社会契約論批判」佐々木武・田中秀夫編『啓蒙と社会』第10章、2011年。査読無。

7) 小峯敦、「なぜ経済思想から見た福祉なのか」小峯敦編『経済思想のなかの貧困・福祉』序章、pp. 1-32、2011年。査読有。

8) 小峯敦「1910-1920年代における経済思想」小峯敦編『経済思想のなかのヒント紺・福祉』第4章、132-162、2011年。査読有。

9) 小峯敦、「ベヴァリッジの貧困観と家族観—福祉国家理念の可能性」『社会経済史研究』第33号、43-56、2009年。査読有。

10) 小峯敦、「社会保障論の現状・歴史・未来」石橋一雄編『日本経済論講義』第10章、2009年。査読無。

11) 小峯敦、「社会保障論の現状・歴史・未来」石橋一雄編『日本経済論講義』第10章、2009年。査読無。

12) 新村聡、『介護福祉のための経済学』弘文堂、p. 208. 2008年。査読無。

13) 江里口拓、『福祉国家の効率と制御—ウェップ夫妻の経済思想』昭和堂、244p. 2008年。査読無。

〔産業財産権〕  
○出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕(計0件)  
ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者：渡会勝義(早稲田大学生経済学術院教授)

研究者番号：80097196

(2) 研究分担者：

新村 聡(岡山大学大学院社会文科科学研究科教授)

研究者番号：00167561

小峯 敦(龍谷大学経済学部教授)

研究者番号：00262387

江里口 拓(西南学院大学経済学部教授)

研究者番号：00284478

石井 穰(関東学院大学経済学部准教授)

研究者番号：10587629

(3) 連携研究者(なし)

研究者番号：